

本当に時の経つのははやく、1月も半ばとなりました。遅くなりましたが、私の2度目の市政報告をさせて頂きます。議会活動も新年度に向け、各委員会から市長への提言をまとめ、1月15日に委員長から市長に報告したり、前年度委員会提言の検証を行うなど、3月議会に向けた動きを活発に行ってています。

私自身は、9月と12月議会において、それぞれ一般質問を行いました。9月議会においては一般質問に加え討論を経験、12月議会においては質疑と討論を行い、議場における発言活動を一通り経験しました。この2回の議会の流れの中で、鈴鹿市に足りないものは何かが見えたと実感しております。それは市民と行政、議会の関係の中で、市民との協働とは何か、情報の共有、説明責任という点について、非常に遅れてることです。

また、地震防災特別委員会視察として新潟県長岡市と小千谷市塩谷地区を、現地復興ボランティアの案内で視察させて頂きました。この場では一点、住民のまちに対する思いだけでなく、行政職員も思いを持ってまちに取り組むことが、魅力ある、活気ある地域づくりの原動力になることを実感させて頂きました。

これらの経験を持って、新年のご挨拶に地域の初参會・初集会をまわらせて頂きました。昨年もまわらせて頂きましたが、心新たにすること多く、議員として一日一日が経験であり、無駄にできることを実感いたしております。

今後もご支援よろしくお願ひいたします。

中西大輔



（1）NTT跡地利用から考える市民のあり方（9・12月一般質問より）

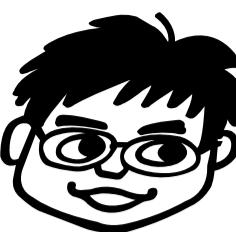
（2）地域活性化の視点から、市民との連動を注視し、取り組みたいと考えています。

鈴鹿市議会議員なかにしだいすけの活動報告

2008

No.002

発行者：
中西大輔と鈴鹿を育てる会
鈴鹿市南若松町296-12
TEL&FAX:059-368-1110



議会報告2007.9月12月

<http://www1.ocn.ne.jp/~daicha/daisuke.nakanishi@gmail.com>

先だっての新聞報道にありましたように、1月15日各常任委員会は市長に対し提言を行いました。これらの提言は全ての1年間、各委員会で検討された事案の中から導き出されたものです。これらの提言はこれから1年間、行政によって進めることを議会から提案したもので、来年の今時期くらいに、行政での執行状況の調査報告を各委員会で受け、議会がチェックすることになります。

私が現在副委員長をつとめさせて頂いています生活産業委員会では、年度はじめに5つの検討事項をだし、その中から実現の可能性なども考えあわせながら、次の3項目について提言を行いました。

生活産業委員会提言

（1）不燃物リサイクルセンター

2期事業について：

市が監督する立場として、相当数の職員を施設内に配置することで地元住民の不安を取り除くべきである。再利用できる限りのリサイクルシステムという考え方については、埼玉県を参考にし、ゴミをビジネスチャンスとしてとらえていく必要がある。住民監視員を認定し、常に施設をオープンにしてPFI方式の説明も含めて市民・地元住民の理解を得られる施設を目指したい。

◆総務委員会：

「自主財源の有効活用策について」

「民間活力の活用について」

◆文教福祉委員会：

「児童館（児童センター）について」

「学童保育について」、「幼保一元化について」

「総合型地域スポーツクラブについて」

「救急医療の受け入れ態勢（救急医療体制）について」

◆建設水道委員会：

「市営住宅について」、「地籍調査について」

生活産業委員会提言（詳細）と各委員会提言（抜粋）

（2）C-BUSについて：

南部路線の乗客へのヒアリング調査を行い、要望をしっかりとらえて事業を推進してほしい。運行前の地域の要望に比べて利用実績が低いことから、自治会に要請してさらなる協力をしてもらうようになされたい。亀山とのリンクができるような、話し合いの場を情報共有しながら

状況を見て、協調していく体制をとつてもいい。事後対応ではなく、常日頃からの体制づくりをされたい。南部路線を検証しつつ、その他地域の公共交通の運行のあり方について、委員会審議を行ってほしい。

検討をされたい。

（3）地区市民センターについて：

地区市民センター運営の業務の中で、地域団体の自主自立を目指す中、関連業

務を見直し、公民館との一元化により職員の研修を充実すべき。公民館行政に力をつける、予算を増やすなど将来の方向性についてしっかりとビジュンを持つべきである。

残りの常任委員会の提言について、それぞれの大項目は、左上の通りになっています。これら常任委員会の提言について、私は立場からも重要なと考え、委員会で審議し採択しました。

私は自身、C-BUSにはじまる今後の公共交通のあり方について、委員会審議の中でオントマンド交通の可能性についても言及しました。また、地区市民センターについては、公民館をまわった経験

地域のデザインに市民の必要はないのか？

NTT跡地利用から考える市民のあり方（9・12月一般質問より）

9月議会では「鈴鹿市行政評価について」と「NTT西日本研修センタ跡地利用について」の2点、12月議会では「NTT西日本研修センタ跡地利用について」と「指定管理者選定について」の2点についてを一般質問しました。

行政評価は、第5次総合計画に基づく基本施策とそれにつながる事務事業について行政がどれだけ達成できているかを自己評価し、それを次の行政運営に有効に使おうとするものです。事務事業評価を実施してから4年目を迎える現在、職員の意識改革と評価テクニックの向上を目指した取り組みが進んでいます。評価内容についてはホームページで公開されています。

NTT西日本研修センタ跡地について、9月議会での質問要旨は大きく「薬学部開學に向けた大学との連携状況、計画の再評価について」の2点です。特に再評価について、市はこの計画を進める主体でありながら、情報公開や説明責任の部で逃げの姿勢と言わざるをえませんで

した。

9月質問の流れから、12月議会で再度この質問に先立ち、研修センタ跡地を視察しましたが、非常に立派な施設が利用されることはなく、廃墟のようになってしまっている状況をみて、市の姿勢に非常に疑問を感じました。9月質問時、市が

12月質問で確認したことは、野球場周辺の防災型広場ゾーンは都市再生機構のづくり支援センター設置の方向で進んでいる白江土地区画整理事業において、交流を目的とした施設を検討の上、市は予算約17億円で保留地（上図中②）取得を進めていますが、今計画との連動を市は考えていないと回答がありました。

私は、その他の利用についても注視し、地域活性化の視点から、市民にとって価値のあるものにするべきだと考えていました。これらのことについて、これからも